

Karl Walszer

スイス絵画
の異才

カ
ー
ル
・
ヴ
ァ
ル
ザ
ー



カール・ヴァルゼー《人形の乳母車と少女》(部分) 1905年以前 新ビール美術館

流麗な線、優美な謎めき—
すべてが日本初公開の回顧展。

開場時間：10時～17時(入場は16時30分まで)

休館日：月曜日、7月21日(火) *7月20日(月・祝)、8月10日(月)、8月24日(月)、8月31日(月)、9月7日(月)、9月14日(月)、9月21日(月・祝)は開館

主催：大阪中之島美術館

協賛：スイス インターナショナル エアラインズ、スイス ワールドカーゴ

後援：在日スイス大使館

企画協力：株式会社キュレーターズ

まだ見ぬ物語の幕開け——



スイス、ベルリン、日本—唯一無二の歩みをたどる日本初回顧展!

カール・ヴァルザーは、20世紀のスイスの美術家です。20歳代からの約四半世紀をドイツの首都ベルリンで過ごし、象徴主義や印象主義など新しい芸術潮流に触れながら、優美な線や色彩に深い意味を潜ませた、独自の画風を築きました。画家として、当時最先端の美術団体であったベルリン分離派の中枢を担う一方で、新進気鋭の演出家マックス・ラインハルトと協働するなど、舞台美術家としても活躍。書籍の挿絵や室内装飾、壁画も手掛けました。1908年(明治41)には日本へ旅行し、京都の宮津をはじめ各地に滞在。歌舞伎や祭など、明治期の日本の風俗や風景を生きて描いています。生前の人気にもかかわらず長らく歴史の闇に埋もれていたヴァルザーは、祖国スイスでも近年に再評価が始まったばかりです。本展は日本初の回顧展であり、出品作すべてが日本初公開です。スイス絵画の異才、ヴァルザーの創作の軌跡を、絵画や素描など約150点の作品をご覧ください。



Event
親子向けの
ナックキッズアワー(7/20)
やギャラリートークなども
開催!
*最新情報は
展覧会公式サイトで
ご確認ください。

1 初期の絵画

見れば見るほど意味深い?
物語を呼び起こす、優美な謎めき

ベルリンで暮らし始めた頃の絵画は、何気ない日常的な画題が、流麗な線や穏やかな色彩で、優美に描かれています。しかし、ただ優美だけではなく、どこかしら謎めいており、物語を想起させるような、幻想への扉が潜んでいるようです。



《麗者》1907年 チュリヒ美術館 (H. E. マイエンフィッシュ博士コレクション、1946年収蔵)



《森》1902-1903年 新ビール美術館

2 日本訪問

関西との知られざる縁。
色鮮やかによみがえる明治期の日本

1908年(明治41)に日本を旅したヴァルザーが、最も心ひかれた街は、日本三景の一つ「天橋立」で知られる京都の宮津でした。花街が栄え、歌舞伎も上演された、約120年前の宮津を、伸びやかな筆づかいと明るい色彩で描いています。



《歌舞伎の女形(阿古屋)》
《(歌舞伎の一場面)のための習作》
1908年 ベルン美術館 (友の会)
©Kunstmuseum Bern

3 多才の人

兄弟の共作にも注目!
舞台美術、本の挿絵・装幀などにみる
豊かな才能



ヴァルザーは絵画制作の他に、舞台装置や衣装のデザイン、本の挿絵や装幀、室内装飾や壁画など、多方面で活躍しました。本展では、舞台美術のための下絵や、弟ローベルト・ヴァルザーの著書の挿絵原画も多数展示します。

《ジャック・オッフエンバック作曲『ホフマン物語』衣装デザイン: ジュリエッタの幕、仮面パーティー》(部分) 1911年 新ビール美術館



《女とボルゾイ犬》1907年頃 フィンタートゥール芸術文化歴史財団
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (表示 4.0国際)
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>



《バルコニーに立つ女性》1902年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)

About カール・ヴァルザー (1877-1943)



スイスのベルン近郊の町ビール(ピエンヌ)に生まれる。1899年、ベルリンに移住。1903年にベルリン分離派の会員となり、審査員も務める。演劇界や出版界でも活躍し、室内装飾も手掛けた。1908年に小説家ベルンハルト・ケラーマンとともに日本を旅行し、ケラーマンによる旅行記に挿絵を描いた。1925年に拠点をチュリヒに移し、以後は壁画や室内装飾に携わった。一歳下の弟ローベルト・ヴァルザー(1878-1956)は著名な文筆家。

カール・ヴァルザーのポートレート 1910年頃

左上および右上 《ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲『フィガロの結婚』衣装デザイン》(部分) 1911年 新ビール美術館: 「変装する小娘」(左上)、「小娘」(右上) すべてカール・ヴァルザー作

Admission

一般	1,800円	(団体1,600円)
高大生	1,300円	(団体1,100円)
小中生	500円	(団体300円)

2026年5月15日(金)10:00より販売
[主なチケット販売場所]
大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット(Lコード:54075)

*団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に大阪中之島美術館公式サイトからお申込みください。*学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式サイト学校団体見学の案内から申込みください。*障がい者手帳(身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳)をお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお買い求めください。(事前予約不要) *本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。*災害などにより臨時で休館となる場合があります。

観覧料(税込)

Access

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1
[電車]京阪:中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分 Osaka Metro:四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分 JR:大阪環状線 福島駅/東西線 新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分 阪神:福島駅より南へ徒歩約10分
[バス]大阪シティバス:JR大阪駅前より53号・75号系統で「田養橋」下車、南西へ徒歩約2分 *お帰りのJR大阪駅方面への便利なバス停は「渡辺橋」です。
[駐車場]有料駐車場あり(割引サービスはございません。)
*詳細は大阪中之島美術館公式サイトをご覧ください。

問い合わせ
TEL:06-4301-7285(大阪市総合コールセンター) 受付時間 8:00-21:00(年中無休)
展覧会公式サイト
<https://nakka-art.jp/exhibition-post/karlwalser-2026/>

アクセス



大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

